

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		富士あけぼの園吉原中央・進			公表日		24年 10月 18日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動内容に応じて、利用スペースを区切っている			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			・職員の配置を考慮して、より一層安全配慮に努めてゆく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			・児童が使える物は一目で分かるように文字や絵などで表してゆく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日児童及び職員が清掃活動を行い、清潔な環境維持に努めている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・学習に集中したいとき、クールダウンが必要など、用途に合わせて別の部屋も使用している。	・個別の部屋の提供については、十分でない部分もある為、改善を目指す。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・職員間の認識の統一を兼ねて、毎日PDCAを意識したカンファレンスを実施している。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員間の認識の統一を兼ねて、毎日カンファレンスを実施している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・毎月一回以上研修を実施している。理解を深める為に、様々な職員が講師を担当している。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・利用者が活動を選択できるよう、複数のプログラムを用意している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・児童発達管理責任者を中心に役割分担を行い、計画書作成のための情報収集に努めている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・放課後等デイサービスの5領域を踏襲し、チーム内で意見を出し合い立案を行っている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・プログラムは固定化しないようになっているが、人気のあるものについては、前回の活動時と比較し、成長具合を確認できるようにしている。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			・ステークホルダーとの意見交換を積極的に 行い、支援に反映させるよう努めている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			・早めの情報共有を心掛け、トラブルが無い よう余裕を持った調整を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・現在、児童館との交流がある。今後感染症 の流行具合を加味し、交流の幅を広げてゆ く。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富士あけぼの園 吉原中央・進		
○保護者評価実施期間	令和6年9月2日		～ 令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和6年9月2日		～ 令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月9日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	チームで利用者様の「個」に焦点を当てた支援の実施を行うこと。	高学年や中高生の多い吉原中央・進において日々の療育だけでなく、「進学」や「就労」という大きな目標に対してどのようなアプローチが可能なのか、職員、利用者様、保護者様、関係機関と連携を図り、方針を決めている。進学についても合格実績あり。	就労体験が出来る機会や機関を増やしていき、利用者様がより広い視点を持てるよう支援してゆく。またその為の情報収集に努める。
2	配置される職員全員が有資格者であること。	活動プログラムや専門的支援にあたり、専門的視点及び知識を反映するよう心掛け、より効果的な支援を目指している。また職員研修等の場においても上記の知識を反映させた資料を作成し、月に一回以上実施している。	利用者様だけでなく、保護者様も含め、知識や療育方法を共有し、ステークホルダー全体で取り組みが出来る体制を促進してゆく。また研修に関しては、新しく入職した職員も自身の専門的知識を活かして、講師担当が出来るよう計画してゆく。
3	防災意識を高く持ち、毎月必ず防災訓練を実施している。	防災に関しては、日々の積み重ねが非常に重要で、有事の際の「命の継続」に繋がると言える。毎月訓練内容を変えながら(地震、火事、風水害、避難訓練など)利用者様及び職員の防災意識醸成促進を目指している。	防災訓練で学んだことをアウトプットすることも非常に重要である。自身の言葉でどのような訓練を行ったのか、家庭ではどのようなことを考え、対策が必要なのかなど、共有できるよう支援体制を強化してゆく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発表会や納涼祭以外に、保護者が集まったり研修を受けられる機会を設けていく。	これまで保護者会を計画してきたものの、感染症の流行との兼ね合いで断念せざるを得ない経緯があった。	これまでの取り組みやノウハウを形にして、保護者を交えた勉強会を実施してゆく。そのための感染症流行状況等の情報取得に努め、早い段階での計画を行ってゆく。
2	日々の児童の活動の場を見ていただく機会を増やしてゆく。	日々の活動について、連絡帳や保護者様への口頭説明、インスタグラムでの報告を行っているが、一部の保護者様より「最近の様子が分からない」とのご意見を頂いた。そのような状況が無いように、別の手段を講じる必要がある。	子育てサポートの観点から、普段の活動や療育の場に保護者様が参加できるよう計画を進めていく。
3			